



ユースが行く！！ ジョー編

環境再生保全機構のマレーシア研修に行ってきました！＜前編＞

環境再生保全機構のマレーシア研修に行く

地球温暖化対策や自然環境を守る必要があることは、これまでの経験や活動を通じ、また、本やインターネットからの情報等で感じていました。昨年、大学のプログラムの一環で、ベトナムを訪問する機会を得ました。初めての海外ということもあり、日本では当たり前のことがそうで無い外国に衝撃を受けました。現場に行かないと見えてこないものがあると考え、熱帯雨林地域を自分の目で見て体で感じたいと考えたため、この活動に参加したいと思いました。

マレーシアでのNGO・NPOの活動や保全活動などを見学させてもらい、様々な体験をさせて頂きました。現地での私の体験を、全国のユースやこどもエコクラブにも知ってもらいたいと思います。

マレーシアについて

現在、経済面において急成長している国で、様々な国から開発の援助がある一方で、環境保全という観点からはまだまだこれからの国であるというのが研修前のイメージでした。しかし、マレーシアを代表する、マングローブ林やオランウータンの環境保全活動について調べると様々な活動が行われていることを知り、この考えは、自分の偏見なのではないかと思いました。

まず、マレーシアを訪問初日にマレーシアの総領事館を訪問して、マレーシアについての説明をうけました。私は、マレーシアのクチン、ペナンを訪れました。マレーシアと日本の関係は深く、日本からマレーシアを訪問する人は2015年で48万人を超えています。また、マレーシアから日本を訪問する人も2012年から2015年の間で倍増しており、この2国間の交流はとても盛んになっています。

親日国のマレーシアの主要言語は、マレー語と英語です。マレーシアの多くの若者は英語が話せます。

また、マレーシアは、マレー系、中華系、インド系などの様々な文化が存在します。

この国の世界遺産の一つに、ジョージタウンがあります。実際にこの研修で訪れる機会がありました。マレーシアが多文化であることが一目で分かりました。



(写真、ジョージタウン)

現地で貴重な体験をたくさんしました。

マレー半島の東に位置するボルネオ島のクチンの山奥に位置する、トンニボンを訪れました。

この村は昨年電気が届きました。胡椒、油ヤシの収穫を村の収入源としています。その村で1日を過ごし、油ヤシの収穫と胡椒の天日干しを体験しました。胡椒は、緑色の熟した実を収穫し、よく晴れている時に、実を薄く広げ、黒色になるまで天日干しします。



油ヤシの収穫も体験させて頂きました。大きなナタでアブラヤシの実を刈り取る作業を実際に行うことで、村の人々の苦労をよく知ることができました。

マレーシアの油やしは、植物油として、日本に輸出されています。洗剤や化粧品、調理用植物油、スナック菓子など、私たちの生活に密接に関わっています。

油ヤシの収穫に向かう道中で写真のような光景が見られました。、、、



所謂、焼畑農業です。このトンニボン村の人たちは国からの補助金が出ており、国の規制から焼畑農業は行っていないようですが、他の近隣の村では、環境破壊と思われる焼畑農業も、それで生計を立てているので、やめることは難しいことを知りました。



夜は村の自給自足の採れたての食材でおもてなしを受けました。出てきたのは、青ガエルの素揚げ。

これが一番おいしかったです 女性メンバーも恐る恐る食べましたが笑顔になるほどおいしいのです。他に地酒、これはお米から作ったもので、アルコール度数は高いのですが私はするすとのどを通り楽しい交流ができました。

